



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：ユーロ圏経済低迷のサウジアラビアへの影響

(5月29日付アラブ・ニュース紙)

5月29日付アラブ・ニュース紙は、ユーロ圏経済低迷に伴うサウジアラビア経済への影響について、概要以下の通り伝えている。

1. ギリシャ経済そのものは、ユーロ圏経済の中で最も小さな経済であるにもかかわらず、ギリシャの財政危機がこの地域に与えた影響は甚大であった。このため、EU諸国は周辺国経済やドイツやフランスなどの債権保有銀行の保護のため、「救済しない」原則を曲げてまで1100億ユーロの救済策に同意した。これによる株価の急落そのものは驚くには当たらないが、現在投資家心理が冷え込んでいるため、株価などの価格変動幅が大きくなってきている。
2. サウジアラビア経済はこの影響からは十分回避可能であるのに加えて、ユーロ安がもたらす物価下落に伴い、低いインフレ率を享受することになるだろう。
3. 現在のサウジアラビア株価指数（TASI）下落の主要因は原油価格の下落であるが、これは世界景気の下落に伴って、石油化学産業の不振が予想されるためである。
4. ユーロ圏経済はサウジアラビアにとって最大のパートナーであるが、他の地域と異なり、貿易赤字ベースでの取引となっている。輸出サイドから考えるとサウジアラビアの原油輸出の11%を占める対ユーロ原油輸出においては、ユーロの下落がリアル高を引き起こし、ユーロ圏への輸出に伴って獲得できる外貨が減少してしまう一方で、総輸入の25%を占めるユーロからの輸入は、ユーロ安による欧州産製品の価格下落を引き起こし、インフレを抑制している。一方で、EU産の製品はサウジアラビア国内製品と競合しておらず、国内産業への価格破壊を誘発するものではない。
5. 信用供与の部分においても、欧州銀行などからの資金投入が減少してしまうことになりかねないが、金利が低水準のままであり、国内銀行の貸し出しについても、徐々に増加していくトレンドが変わることはないだろう。